

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・レモンの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	三重県 津市
記入者名 (管理者)	倉田 成文
記入日	平成 20 年 2 月 24 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	健康とオープンを基本理念としており、オープンな体制を構築している。 外出支援・地域交流・コンサートの実施・実習生の受入れ・外部職員の研修受入れなど実施している。	○	コンサートの全国的な広まりをめざす。地域の人々との交流をさらに発展させる。平等でなく、公平を大切にする。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者は常にホームにいて、職員とのコミュニケーションに努めている。 理念を『健康とオープン』に集約し、その実現にはどうすればよいかを常に話し合っている。	○	現状を継続してゆく。職員と対等の関係・・・呼称・研修・意見発表など。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念を具現化しており、ホームページ・報道等を通じ理解を深めてもらう工夫をしている。 ホームページには考え方・理念・施策を具体的に掲出し、誰もがわかる形で見られている。	○	ホームページをさらに充実する。地域の人々と話し合う機会を増やしてゆきたい。コンサートや表彰式などの新聞・TV報道で理解が進んでいる。全国大会での発表・県での勉強会発表などを行っている。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホームは施錠せず、いつでも気軽に立ち寄っていただく体制をとっている。 ホームページでも訪問を歓迎する旨表示し、地域行事にも参加している。	○	(行事など、高齢化に伴い参加しづらくなると思われるが、可能な限り継続してゆきたい。) 散歩時の挨拶・声掛け、野菜貰い、無断外出対策。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会・老人会・神社祭礼・保育園との相互訪問など積極的に取り組んでいる。無断外出にも地域の人に対応していただけるよう依頼してある。	○	地元の方々との交流を継続する。99才がNHKのど自慢出場。表彰式・老人会などには入居者も出席する。代表者は、地区・百五銀行・三重大学・三重短期大学などでの講演やトークも行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者や、認知症のお年寄りを抱える家屋の相談に乗っている。認知症についての理解を深めてもらうことで、家族の精神的負担が減少し、喜んでいただいている。地域のスーパーや飲食店等に入居者が単独で来店したときには、本人の希望を叶えてもらえるよう依頼してある。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つ試みが続けたい。コンサート実施。相談業務に応じている・・・相談に来られた家族は介護のヒントを得て、笑い顔で帰宅される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を元に、いっそうの改善に取り組んでいる。	○	継続 コンサートの拡大・協議会での活動を推進している。 業務見直しの良い機会である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・報告を大切に、具現化に努めている。(家族との旅行など) 本年は開設5周年事業を計画している。	○	5周年事業として、ガーデン整備・介護教室の開催・記録集の発行などを進めたい。議事録・開催の趣旨など別紙添付
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とも交流を進めている。協議会役員として連絡も行い、連合コンサートなどを通じて話し合い、質の向上に努めている。 三重県立夢学園・三重県立北勢きらら学園とも協調した取り組みを図っている。	○	行政・教育機関とさらに連携し、幅広い活動をしたい。三重大学・三重短期大学・高田短期大学・新町小学校・新町保育園・いなば園・国児学園・長谷山寮などと連携を取っている。精神・身体・知的障害者の社会参加も受け入れている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者1名 協議会の勉強会も活用している。	○	地域の方々の相談相手となれるようにしたい。 民生委員とも交流している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種資格取得・研修会参加を通じ学習し、それを職員間でも常に話し合い、虐待防止に努めている。 眼に見えるだけでなく、見えない虐待があることも職員・家族と話し合っている。	○	今後も研修の機会を増やし、職員すべてが虐待の本質を見極める力を持ちたい。いじめ・身体の暴力・精神的な暴力・声や光など五感や環境の暴力・不作為の暴力などの各種虐待の理解を進めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	いつでも対応できるように常に整備しておく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	運営推進会議をさらに有益な意見交換の場としてゆく。 家族旅行の場の発言・家族との食事会・喫茶の場などで、本音を聞きだしている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	現状を継続する。家族には適宜報告している（但し、家族の不安を軽減する方向・家族の希望の吸収を図る方向で行っている：あからさまな行動記録や、職員の対応の逐一報告などは、家族にとって精神的な負担が増加するので、穏やかな表現にする）
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	運営推進会議に家族の参加をしてもらっている。今後ともきめ細かな対応を続ける。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	現体制を維持する。 施設長・職員の判断を大切にし、職員の相談などで実行出来るように自由裁量を認めている。（行事・作業・食事・資材・介助方法）
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	職員の待遇改善をさらに進める。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	職員の待遇改善をさらに進める。 給与の大幅アップ 特に夜勤者の待遇改善を図った。これにより日勤者の負担軽減と、継続的なケアの充実が図れるようになった。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の定例の研究会や、管理者講習、他ホームでの研修の実施。 また、実習生の受入れなどでの相互研修などを取り入れている。	○ 職員の考える力の育成に努める。 大型免許取得・外部研修を行った。 人員の余裕が出来たので、施設長が職員の指導をする時間を設けた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の役員として、他の事業者との交流・指導に当たっている。 他のホームとも職員が相互訪問し、他のホームのよさを積極的に取り入れている。	○ 現状を維持する。 三重県グループホーム連絡協議会の相互研修の受入れ、三重県福祉セミナー実行委員・認知症の人と家族の会・全国グループホーム協会・三重大学老人福祉研究会・岐阜県グループホーム協会の参加。 他ホーム等でのコンサート。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者の旅行・外出時には、入居者を上回る付添者（職員・家族・ボランティア）を配し、安全確保と共に、付添者も旅行を十分に楽しめる体制を取っている。 平素も、職員同士の食事会・外出を楽しみ、職場外で意見交換できる場を設けている。 給与の公平と公開を図った。資格と仕事と同じであれば同じ給料とした。	○ 職員の待遇の維持をしてゆく。 現在、年金・健康保険加入者7名 今後2名追加し、職員が安心して定着するようにしている。 人員配置に余裕を持たせているので、急な欠勤にも対応出来る。有給休暇を取りやすくしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、業務をマニュアル化せず、職員の判断力を大切にしている。 職員が考えたことや提案は即時実行する体制をとり、職員の行動力を引き出すようにしている。 職員は自分に笑顔を・・・と考えてもらっている。	○ 職員の判断力を育成する。 退職者にもボーナスの支給・有給休暇の消化をさせた。 そして、その後も、職員間で連絡を取り合い、関係の継続を図った。その結果、一旦退職した職員が1年後レモンの里へ戻ってくれた。 あと1名復帰の予定。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	レモンの里では、個別対応が基本であり、個人の希望を叶える事が『元気の源泉』と考えている。 家族との希望のすり合わせも大切にしている。	○ 見守りの中で、本人が表出できない願望を気づくようにする。 飲酒・喫煙・帰宅・帰宅願望・外出・家具・テレビ・エプロン・医療機関の選択・整容など本人や家族の希望通りにした。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望・本人の希望を徹底的に聞き、帰宅願望時の対応など、安全だけにとらわれるのではなく、人間として生きる希望の実現を具現化する努力を続けている。	○ 家族の本当の安心は、本人が認知症になるまでに自宅で暮らしていたような暮らしをすることだと思う。 そのためには職員がどうすればよいかを考え続ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この2年間新規入居者はいないが、開設当初から、支援（本人と家族の希望を叶える）を大切にし、それを実現している。	○	継続 自由な空気が早期の安定に繋がる。設備に頼らないケアが大切。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設当初は入居者数を6人にし、5ヵ月後に3人の入居を加え、なじみの関係を構築しつつ家族的な関係を作った。最近の入居者は、2年3ヶ月前であるが、音楽を通じて人間関係を作り、なじみの調度品を多数持ち込んでもらい、早く馴染んでいただくことが出来た。	○	職員が肩書きで呼び合わないようにしており、それも家族的な生活に役立っている。この体制を継続してゆく。正しいからといって、押し付けるのではなく、個人を大切にし、自由意志を大切にしてきた、結果としてコミュニケーションが満足の行けるものになった。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの入居者が、食事準備など自分の出来ることは自分です。 本人の希望を重視し、自己実現に努めた。 結果として、笑顔を作ってもらうのではなく、自然な形で喜怒哀楽や、互いに教えあう関係が出来た。	○	入居者の体力に応じて現体制を続ける。玄関での来客対応・宅配便対応、来訪者・実習生などの玄関での見送り等、日常では当たり前家族間の協力をしていただいている。自室や廊下ホールなどの掃除、インコの世話、植木水遣り等。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問に一切制限を加えず、自由な家族関係を重視している。 誕生会・外出・長距離旅行にも家族旅行という性格を持たせ、家族だけでは実現できない関係を構築してきた。	○	現状を維持する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にとっては、大切でかけがえのない父母であるので、本人が落ち着いて暮らしていることを家族に見ていただくことを大切にしたい。 結果として家族の家庭内の家族関係が修復され、家族としての普通の生活が出来るようになっていく。	○	運営推進会議を通じ、さらに理解を深めてもらう。本人と家族を切り離し、家族がレモンの里のケアに満足することで家族の海外・国内旅行が実現した。また、家族の夫婦関係が修復した。家族も普通の生活が出来るようになった。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区老人会出席・祭礼参加。家族や親戚・旧知の方々の来園など積極的に行っている。近隣飲食店・商店などに協力依頼をしている。	○	現状を維持する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話が長く、散歩・外出・レクなどの時に互いに助け合う姿も見られる。規則・きまりで生活するのではなく、マナーで生活することを重視している。	○	利用者にストレスが無いことが良好な関係維持につながるので、精神ケアを大切にする。小さな言い争いや喧嘩が見られることがあるが、職員は見守りをするが、口出しや仲裁をしない。この方が自己解決能力を奪わなく、社会性を維持できると考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時に記念植樹をしていただき、開花時期には来園いただいている。 また、不要になった介護用品の寄贈もいただいている。 (現在、継続的な関わりを必要とする方は見えない)	○	現状維持。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが個人であることを尊重し、個人本位で暮らしていただくを大切にしている。 職員の都合で考えず、本人の意向を大切にしている。 回想法と未来法の活用により、希望を持ち、アクティブな行動につなげている。(旅行・食事・コンサート等)	○	継続する。複数の医師の中から、本人の選択で受診する。(43と重複) 帰宅・自宅での宿泊・バスでの帰宅など支援している。妄想・幻覚・勘違いなどの行動や考えを否定しない。 週刊誌などの読書。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り、日常生活の中での把握をしている。また、家族との旅行や会話の中などで本人や家族が昔のことを思い出し、思いがけない経歴などを聞かせていただくことがある。アクティブな回想法の活用をしている。	○	日常会話の中で解き明かしてゆく。京都訪問(金子さん) 名古屋親族訪問(高尾さん) 大阪訪問(田口義高さん) など、家族を交えた車内の会話や、本人の『記憶のよみがえり』の中から暮らしや人生の経過が把握できた。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者は、あくまでも個人として過ごしていただくこととし、自由行動を原則としている。 医師・職員・家族とが話し合い、総合的に把握している。小声での会話に努め、聴く能力を高めることが出来た。	○	現状維持。就寝・起床・食事・居場所・服装・入浴など規制をしない。また、日課を定めないことで、自由な行動をしていただくようにしている。行事等は完全に自由参加としている。誕生会なども人によっては、個人での誕生会としている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・医師などの関係者と話し合い、自由な意見を集約して介護計画を作成している。 介護計画は、臨機応変に変更できるようにしている。	○	現状維持。即時対応を原則としている。室内放尿が続いたときがあり、オムツ・リハパンなどの対応を考えたこともあったが、声掛けや、排泄時間・間隔を検討し、ハード(物)でなくソフトで解決することが出来た。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、本人の意向を大切にし、職員の感じたことを即時実行できる体制を構築し、家族と常に話し合いながらケアを実施している。	○	家族との連携を大切に現状維持。 即時対応をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別介護記録に記入し、変化に即時対応している。 介護記録は変化が良くわかるように記入方法を工夫している。	○	書式は必要に応じて変化させる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームという、小回りの効く施設であるので、外出・体調変化・暮らしぶりなどを柔軟に支援している。 近隣・ボランティア・家族の参加を大切にしている。	○	職員だけでは出来ないことが多いので、外部の方々の力を借りる。 外出・祭り・行事・老人会・出前コンサートなどボランティアの協力を得ている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	家族が民生委員の方も見える。 ボランティアの方々の参加も多い。 保育園・消防・リージョンプラザ・県文化会館・県立高校・三重大学とも協力して支援に当たっている。	○	多過ぎるような気もするので現状で推移させたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	心身クリニック・デイサービス・他のグループホームとも連携している。 心身クリニックのデイケアの利用も行っている。	○	現状維持。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協調して、権利擁護や長期ケアマネジメントに努めている。	○	現状維持。 成年後見制度利用1名 家族とも話し合っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を入れて、複数の医師の診療を受けている。 内科：生協病院・川浪内科 眼科：東海眼科・服部眼科 整形：村島整形・生協病院・永井病院など家族・本人の希望を調整して、複数の診療機関で受診をしている。	○	現状維持。 川浪内科は月2回の定期往診。通院については家族の負担が無いように、すべて職員が行っている。 また、診療費・薬代を除く、送迎や付添費用はレモンの里ですべて負担している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	現状維持。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	職員として看護師の採用を検討している。3名のデイサービス（併用型）の開設を検討している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	左記の経験を生かし、今後も前向きに対応する。入院によるダメージを防ぐため、こまめな通院、居室での職員付き添いで水分補給・栄養補給をし、入院を回避した。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	家族がいざその場になったときに、どのような意向の変化があるか予測できない。どのような意向の変化があっても対応できるように体制を整えておく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	元気で長生きを目指し、終末ケア期間が出来るだけ少なくなるように努める。（元気であってこそ良い終末を迎えられる）
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	職員の初期の対応が大切であると共に、他の入居者の動静もダメージの多寡に影響するので、その面の研究も進める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は入居者の居ない所で行っている。本人のものでなくとも、見えるところで記録されることは嫌であると思う。 家族の会話に近い話し方を心がけている。 お客様扱いの声掛けや対応は、家族的な関係の構築が出来ず、本人の意欲を減退させると考えている。	○ 入居者は、全員がプライドが高い方なので、今後も慎重に言葉掛けをしてゆく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いつでも職員と会話ができる。本人の希望で帰宅、宿泊、単独でバスに乗っての帰宅、通院も実現している。 無断外出時も、すぐに連れ戻すのではなく、ラーメン・コーヒーなど一人で摂る場合は、遠くから見守り、それが済んでからさりげなく帰園を促している。	○ 入居者の希望には、『まず イエス!』という考えで対応をしてゆく。そしてゆっくり話してゆく中で、本人の真意を探り、適切な対応をしてゆく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を全廃し、朝食時間も各自が自分のペースで取れるようにしている。歌の時間や散歩時も、強制せず自由参加としている。 入浴時間も予定にとらわれず、臨機応変に対処している。入浴は、時間制限無しに一人で気楽に入っている。	○ 現状を継続する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	大多数が訪問理美容（サナエ美容室）を利用しているが、毛染めなどはなじみの店に行っている。	○ 本人の希望を聞きつつ、現状を維持する本人にふさわしい自由な髪型にしている。 下着や衣服には名前を書かず、9色のリボンで対応している。混乱はあるが、下着類に名前を書くことは、個性の否定に繋がるので、職員も本人も抵抗がある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買出しに行く人、下ごしらえをする人、テーブルの準備をする人など、上げ膳・下げ膳も出来る人は自分で運んでいる。調理する鮮魚・野菜類をじかに見てもらい、食事意欲の喚起にもつなげている。	○ 現状を維持する。 季節を問わず、刺身・サラダを活用している。 骨付・一匹なりの魚をたべていただいている。 食器についても陶磁器の良質なものを使用し、盛り付けなども配慮している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒を楽しめる人には、深夜自室で代表者と酒を酌み交わす。自室に酒壇が置いてある。酒器も各種用意してある。 タバコを吸う人は職員と一緒に喫煙所で吸う。 飲料もコーヒー・紅茶・自家製蜂蜜レモン・緑茶・ほうじ茶・ジュース類も用意してある。	○ 楽しみを深める工夫を続ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙おむつ使用者が当初3名いたが、現在では夜間一人だけが着用。 ポータブルトイレ使用者も当初3名から現在ゼロになっている。ポータブルもオムツと同様のものと考えている。今では、居室の便臭がやわらぎ、家族面会時に快適になっている。	○	今後、年齢の上昇に伴い、維持することが難しくなると思われるが、車椅子の活用・声掛けなどで対応しつつ、ポータブルトイレを使わない工夫をしてゆく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個室とし、一人ひとりお湯を替えている。浴槽・浴室を都度洗剤で洗い、きれいで衛生的な入浴をいただいている。入浴時間や回数は臨機応変としている。職員は大変だが、ゆったりと入浴を楽しんでいただいている。	○	現状を継続してゆく。一人ひとり湯を替えているので、レジオネラ菌などの心配が無く、殺菌剤・入浴剤を使わずに入浴できる。新しい湯なので、誰もが一番風呂で、ゆったりしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝は本人が自分で居室に行き、適宜取られる。長時間になるときは適宜声掛けをするが、殆んどマイペース。 就眠時間・起床時間はそれぞれの自由になっている。温度管理もその日によって外気温とすり合わせて調節している。	○	現状を継続してゆく。一人ひとり湯を替えているので、レジオネラ菌などの心配が無く、殺菌剤・入浴剤を使わずに入浴できる。新しい湯なので、誰もが一番風呂で、ゆったりしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩・外出・家族旅行・家族との個別外出・喫茶店・買物・精米・ドライブ・保育園訪問・歌・書道・手芸・草取り・ゴミ出しなど仕事や遊びを取り入れている。クロッカールゴードン表彰式でも、お年寄りがお礼の言葉を演壇で読み上げた。	○	個人に合わせた暮らしを続ける。外出時には制限せず、食べたいものを心行くまで食べていただいている。家族とのフランス料理も喜ばれている。これらの費用はレモンの里で負担している。レモンの里の果物の収穫や活用により五感活発化。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、小額の金銭を持っている。これは特に職員が管理せず、必要に応じ補充している。	○	出来なくなることが増えてきていて、本人の金銭感覚が薄れてきているが、現状維持をしてゆく。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	無断外出・喫茶店・買い物・家族との外出・ボランティアとの外出・ガーデンの散策・帰宅・宿泊など多様に対処している。	○	現状維持。家族から突然の外出・外食希望にも対処している。職員付き添いの食事は職員も同じものをいただく。この場合、費用はすべてレモンの里が負担し、個人負担を無くし、外食の機会を増やすように支援している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	北海道・沖縄・岩手花巻・丹後半島・旧満州・あわら温泉・京都・奈良・伊勢神宮・鳥羽・信楽など随時外出。(職員・家族・ボランティアの同行) 墓参・兄弟や親族との面会(名古屋)など、認知症であっても普通に会話や食事が出来る。バスの乗降も軽やかになった。	○	家族の希望を積極的に取り入れ、また、希望を引き出すようにして、人間らしい生活をしていただくようにする。外出時には普段のホーム内では観察できないような身体機能・精神機能のチェックが出来る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をすることは殆んど無いが、親戚の方からの電話が入ることがある。現在耳の不自由な方は居ないので、電話での会話が出来る。 年賀状を職員の手助けで出した。(7名)	○	年賀状の範囲を拡大する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・親族・遠縁の人・友人などの来訪は多い。 開設以来無施錠を貫いている。	○	現状維持。 本人が面会のために外出することも積極的にやっている。 日経新聞浅川編集委員がデイサービス協会の推薦で見学に来られた。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	精神的な拘束・身体拘束・環境的な拘束のすべてを排除している。 但し、無断外出にはGPSによる見守り追跡をして、安全確保に努めている。	○	過度の安全対策に陥らないように気をつけながら、現状を維持してゆく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることは人間関係の破壊である。 一番大切な信頼関係を職員の側から放棄することになる。…このことを職員が理解している。 鍵を掛けないからその人の精神状態を把握しようと努めることに繋がる。 鍵を掛ければ、職員は入居者の精神状況に無関心になってしまう。	○	認知症状の進行により、鍵を掛けなければならなくなることも考えられるが、一律に施錠したり、施錠すれば安心という考えにならないように注意しつつ対応する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全は大切であるが、その人らしく暮らすことを最優先にしている。 人として生きていただくために安全確保をしている。(無断外出の見守り・歩行時の寄添い・庖丁類の使用)	○	活力を持ちながら安全確保に努める。 夜間の定時的な巡視・必要に応じた排泄の声かけ、など見守りを大切にしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	庖丁・工具・生花・観葉植物など、一律に無くせば、表面上の安全は確保できるが、生きるための意欲の喚起が出来なくなる。 庖丁は夜間管理するが、必要に応じて手渡している。 入居以前の自宅での生活に近づけた『普通の生活』を目指している。	○	普通の生活を保ちながら。管理に取り組む。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は、入居者それぞれの身体状況を把握して、対応策を話し合っている。 その人に必要最小限の援助と、最大限の配慮をしている。 火災その他事故に対応した訓練を行っている。	○	新種の感染症などにも対応できるように準備しておく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員間で応急手当が出来る。(受講済み) また、職員同士で日常的に話し合い、実地訓練も行っている。	○	継続。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急避難用にビニールハウスを設置。避難場所を確認してある。 職員2名が100メートル以内に居住し、緊急対応体制をとっている。避難経路も確認している。	○	新たな災害に備えるように体制を構築しておく。緊急時には、パジャマに上着を羽織って駆けつけることが出来る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由でのびのび暮らすことがリスクの減少に繋がる。リスクはつき物であるが、それを物理的要素だけで解決してはいけないと考えて職員・家族と話し合っている。	○	精神的な介護を大切に、リスクについても研究を続ける。ティッシュなどを取り上げる、花や植木を遠ざけるようなことをしない。物理的な解決は最後の手段である。精神的なストレスをためないようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化時には、職員間で確認しあう。速やかに内科医に電話し、往診・受診につなげている。休日夜間も対応していただいている。	○	勉強会・研修などを活用する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の功罪について理解しており、精神科・内科医と常に相談し、薬の用法を細かく調整している。	○	新入介護職員も早く薬の功罪を肌で理解するようにしてゆく。医師と相談しながら減薬に努めている・・・ハルナール グラマリール リスパダール アリセプトなど。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が精神状況の不穏や帰宅願望に繋がることを理解しており、水分摂取や魚・野菜中心の食事内容としている。散歩や日光浴にも取り組んでいる。	○	排便サイクルや、便意を見極めるようにし、さらに快適な生活が出来るように研究する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後洗面所へ誘導し、口腔ケアをしている。	○	継続。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・バランスに配慮しつつ、良質で食事意欲を高めるような食事作りをしている。 現在でも全員が箸を使って食事をしている。	○	全員が可能な限り箸を使い続けるように支援する。 日中はいつでもお茶が飲めるようにしてある。 夜間はペットボトルなどを置くのではなく、トイレ時に必要に応じて温かいお茶を居室に運び飲んでいただいている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防・対応について職員に知らしめている。 基礎体力作りに取り組んでいる。これにより、来客が多い割には風邪引きなどが無い。過去3年間高熱の発症が無い。	○	体力づくりと。感染予防の体制を継続する。 本人・職員全員がインフルエンザ予防接種をし、食材は鮮度・汚染に気をつけている。鮮度にこだわり、安全性を確認して刺身・サラダを食べていただいている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は職員が市場で新鮮で安全なものにこだわって購入している。 職員も入居者と同じ食事をし、衛生と品質の確保に役立てている。	○	現状を維持する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	さりげなく、控えめな看板と、それを取巻く花鉢・植木類が入りやすさに繋がっている。 無施錠と呼び鈴が無いことを特徴にしている。	○	来園者からの意見を取り入れ、工夫を続ける。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベート空間・パブリック空間共に、生花・観葉植物類が豊富に置かれている。雑然とした中にも季節感を十分に味わえるようにしている。採光についても、高齢者が使いやすい明るさを確保している。 ホールにはテレビを設置していない。夜にはプロジェクターを使って映画会を楽しんでいる。	○	あまり整然としていると、生活感が希薄になるので、普通の家に近い雰囲気を出しつつ必要なものは取り入れてゆく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	西廊下にベンチ・喫煙所にも手作りベンチ・デッキにも他の人と離れて過ごしたり、少人数で会話できる場所がある。	○	今年は、ガーデンの整備をする予定なので、さらに充実できると思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みで、自由に使用している。 壁に絵画や写真を配置し、筆筒・ドレッサーなどの調度品も自由に持ち込んでいる。	○	本人の意向を尊重しつつ、快適な居住空間を作る。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物は換気がしやすい構造で、職員は常に注意を払っている。 温度調整は、外気温を勘案して、不自然でない温度に調整している。	○	現状維持。一気に換気することが出来るので、排便臭があったときは、建物全体を開放し、換気するようにしている。(便臭は慣れてしまうと鈍感になってしまうので、注意をしている)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手摺・歩行に安全なクッションフロア・個別入浴用の浴室・広いトイレなど、安全と自立に配慮した設備になっている。 職員も必要最小限の心身援助で対応している。	○	必要に応じ、最適な補助具などを導入してゆく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	花の水遣りや、目立ちすぎないトイレ表示、一人での外出時にも帰って来易い玄関周り。 GPS利用による外出時の見守りなど工夫している。 難読漢字を読んだり、考える番組の映画会など実行している。	○	出来なくなっているのではなく、出来ることが発揮されていないだけであると理解し、出来ることを探すことから、自立につなげてゆきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りに花壇や植木鉢を配している。玄関上がり口には毎週生花を生けている。そのときには大多数の入居者が花の先生を取り囲み、談笑しながら活け込みを見ている。また、端材で一輪挿しを作り、居室に運んで楽しんでいる。ベランダ・デッキは新鮮な空気と日光浴の好適地である。	○	ボランティアの方々の援助により、さらに活用できるようにする。ガーデン整備も進める。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

レモンの里は、建物の南側に約200坪のガーデン（果樹園）があり、自然や季節感を十分に味わえる環境にある。運営理念は『健康とオープン』を基本とし、職員は常にこの実現のために創意工夫を重ねながらケアに当たっている。開設して満4年を迎え、順調に推移している。過去4年間の退去者はわずか2名であり、すべての入居者が入居してから元気を回復している。精神科・内科医師と協調し、すべての入居者が薬の全廃または減薬している。おむつ（リハパン）使用者もその必要がなくなった。現在1名が夜間リハパン使用しているが、出来るだけ自力排尿に努めている。ポータブルトイレについても、当初3名が使用していたが、現在はすべて撤去している。日常ケアについても、日課を廃止し、個別介護を徹底し、それぞれの入居者が自分のペースで生活している。当初、個別対応は大変時間・手間がかかっていたが、現在ではその効果が現れ、職員は身体介護にあまり時間を掛ける必要がなくなってきている。自由な雰囲気、入居者の健康に繋がり、自由だからこそ良く職員の言うことを聞いてくれている。入居者個人の希望を叶える方法として、北海道・沖縄・旧満州・京都・奈良などの家族旅行 旧知・親戚縁者との面会 ふるさと訪問 家族との外出 喫茶店などの外出や衣類の希望を取り入れている。起床・朝食時間の自由 就寝の自由 入浴は個別入浴で、一人ひとり湯を入れ替える……など、また、自己実現の一環として、入居者自身が舞台上立って歌うコンサートを実施し、昨年で3回目になった。地域交流も重要な項目で、地域の祭礼・他の施設（障害者・グループホーム）訪問・老人会参加などを行っている。昨年スウェーデンの表彰制度『クロッカールガーデン表彰』を受けた。